

SYLLABUS
シラバス
令和6年度

歯科衛生士科

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
衛生・公衆衛生		講義	新庄 文明	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>疾病の発症予防（一次予防）、早期発見と早期対処（二次予防）、進行阻止とリハビリ（三次予防）の各段階を通して、個人の生涯、集団の規模、地域の特定に応じた、健康リスクを軽減する方法論を習得する。科学的な考え方を育み、地球規模の健康問題に対する理解と、保健・医療・福祉における専門家の役割を理解し、問題発見から問題解決を見据えた態度・習慣を身につけ、個人や地域の特性に応じた実践を担う判断力、生命と人格を尊重した健康政策と対人関係を形成しつつ問題を解決する能力を身につけることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 健康の定義と予防原則を理解する。 5. 母子/学校保健の重点を理解する。 9. 精神保健の現状を理解する。 2. 環境/食品と健康の関係を理解する。 6. 産業と成人保健の方法を理解する。 10. 国際保健の課題を理解する。 3. 感染症の予防対策を理解する。 7. 高齢者の保健と福祉を理解する。 4. 地域保健の組織と方法を理解する。 8. 災害時歯科保健の課題を理解する。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	予防医学という考え方の原則とその背景（1章）			
2	衛生統計・人口ならびに健康の指標（2章）			
3	環境の健康影響と環境保全対策（3章）			
4	疾病の原因と予防手段をさぐる方法としての疫学の考え方（4章）			
5	感染症（1） 感染と感染予防（5章）			
6	感染症（2） 感染症と院内感染予防（5章）			
7	食品と健康 栄養確保と食品衛生（6章）			
8	生活習慣と健康（7章）			
9	地域保健の組織とその進め方（8章）			
10	母子保健：母性保護と育児（9章）			
11	学校保健：学校保健と保健教育（10章）			
12	地域と職場における成人の健康管理（11章・12章）			
13	老人保健と老人医療（11章）			
14	介護予防と老人福祉（11章）			
15	こころの健康と精神衛生（13章）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学 第2版	末高武彦 他	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
化学		講義	酒井 健雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
化学は医療に欠かせない知識である。歯科衛生士の業務を考えると口腔内で使うレジンや薬品に対する知識・安全性の基準をしっかりと理解しておく必要がある。高校で化学を履修していない場合も考えられるので、歯科衛生士として必要最低限の基本的な事柄に絞り原子の構造、化学結合と性質、物質の状態、化学反応の法則、%濃度、モル濃度、浸透モル濃度などについて教授し、専門科目へのスムーズな接続を目的とする。				
授業の到達目標				
歯科衛生士に必要な化学の各基本的事項について説明ができること。溶液の%濃度や人体の浸透圧について理論の裏付から説明できる能力を身につける。毎回演習問題で講義の理解度を測る。				
授業計画				
回	内容			
1	医療で扱う単位 SI単位系、生体内圧力・血圧の法定計量単位			
2	物質の分類			
3	物質の構造 電子配置			
4	元素の周期律 物質質量 (mol)			
5	化学結合			
6	気体の性質			
7	水溶液の濃度表示			
8	水溶液の性質			
9	酸とアルカリ 緩衝作用			
10	酸化と還元			
11	有機化合物（1）			
12	有機化合物（2）			
13	人体を構成する物質 水分 糖質			
14	人体を構成する物質 水分 アミノ酸 蛋白 脂質			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%	60%以上の得点があること。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%	講義への取り組み、質問に対する対応、課題の予習状況		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 化学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	高校化学の教科書も参考になるので利用してください。			
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖・生理学 I		講義	本間 志保	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
人体の成り立ちを理解するために、体の構造と組織・発生に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 身体の部位 (区分) と方向用語を正しく説明できる。 2. 細胞・組織・器官の関係性を説明できる。 3. 全身の構造を器官系ごとに分けて説明できる。 4. 人体の発生の概略を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	解剖学総論:解剖学とはどのような学問か、人体の区分と名称、方向用語			
2	細胞と組織:細胞の構造、細胞分裂、組織とは何か			
3	骨学:骨の発生、基本構造、全身の骨			
4	筋学:筋の構造、分類、各部位の筋			
5	消化器系:消化吸収に関わる器官の名称と構造			
6	脈管系:血管の基本構造、心臓の構造、全身の動静脈、リンパ系			
7	感覚系:皮膚粘膜の感覚器の構造、特殊感覚器の構造			
8	神経系:神経系の基本構造、中枢神経系、末梢神経系			
9	前半のまとめ			
10	呼吸器系:呼吸に関わる器官の名称と構造			
11	泌尿器系:泌尿器の構造			
12	内分泌系:内分泌とは何か、内分泌器官の名称と構造			
13	生殖器系:男性生殖器、女性生殖器			
14	人体の発生:発生に関わる細胞、受精卵から胎児となり出生に至るまでのあらまし			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	解剖学についての正しい知識を習得できているかを評価基準とする。		
レポート・課題	20%	課題への取り組み姿勢、結果をもとに評価する。		
小テスト				
平常点	10%	授業への取り組み姿勢 (授業態度、予習復習) を評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖・生理学Ⅱ		講義	安藤 啓司	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
人体の成り立ちを理解するために、体の構造と組織・発生に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 細胞膜、細胞内液と外液を説明できる。		6. 血液生理学を説明できる。		11. 体温の調節、発熱のメカニズム、発汗を説明できる。
2. 筋の生理学を説明できる。		7. 生体防御系を説明ができる。		12. 感覚器を説明できる。
3. 神経線維、活動電位を説明できる。		8. 消化と吸収、排泄を説明できる。		13. 神経伝導、反射、自律神経を説明できる。
4. 神経伝導、神経伝達物質を説明できる。		9. 呼吸器系の生理学を説明できる。		14. 外皮系、加齢、老化を説明できる。
5. 循環器系の生理学を説明できる。		10. 腎機能検査、尿、体液、酸一塩基平衡を説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	バイタルサイン、細胞膜、細胞内液と外液			
2	筋の生理学			
3	神経線維、活動電位、神経伝導			
4	シナプス、反射、末梢神経、中枢神経			
5	循環器系			
6	血液生理学			
7	生体防御系、内分泌系			
8	内分泌系、消化と吸収			
9	消化と吸収、自律神経			
10	呼吸器系の生理学			
11	腎機能検査、尿、体液、酸一塩基平衡			
12	体温の調節、発熱のメカニズム、発汗			
13	感覚 1			
14	感覚 2			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
口腔衛生学		講義	西山 憲行	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科疾患を予防するために、歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯・口腔の健康と予防について説明できる。 2. 口腔清掃について説明できる。 3. 歯科疾患の疫学について説明できる。 4. う蝕の予防について説明できる。 5. フッ化物によるう蝕予防について説明できる。 6. 歯周病の予防について説明できる。 7. その他の疾患・異常の予防について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	はじめに：口腔衛生学とは			
2	歯・口腔の健康と予防			
3	歯・口腔の付着物、沈着物			
4	口腔清掃：意義、清掃法、歯磨剤と洗口液・洗口剤			
5	歯科疾患の疫学：う蝕、歯周疾患、その他の疫学			
6	う蝕の予防（1）う蝕発生のメカニズム、発生要因			
7	う蝕の予防（2）う蝕活動性、う蝕の予防法			
8	フッ化物によるう蝕予防			
9	歯周疾患の予防（1）症状と分類、発生機序			
10	歯周疾患の予防（2）全身に与える影響、予防			
11	その他の疾患、異常の予防（1）口内炎、口腔癌、不正咬合			
12	その他の疾患、異常の予防（2）顎関節症、歯の形成不全、口臭症、口腔乾燥			
13	ライフステージごとの口腔保健管理（1）目標、母子、小児期の口腔保健			
14	ライフステージごとの口腔保健管理（2）成人期、老年期の口腔保健			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載	補足教材として、プリントを配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
講義の進行具合により、シラバスの授業計画は前後することもある。				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
口腔解剖学		講義	小林 正樹	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
顔面、口腔およびその周辺組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 頭頸部の基本的な構造を説明できる。 2. 歯と歯周組織の構造を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	口腔の概要 口腔とは、体・歯の方向用語			
2	口腔の概要 口唇、口腔前庭、固有口腔、口峽、舌			
3	口腔の概要 口腔を構成する骨、三叉神経の走行			
4	口腔の概要 唾液腺、咽頭			
5	口腔の概要 歯の解剖学：咀嚼筋、歯の概論			
6	口腔の概要 歯の解剖学：永久歯(前歯)			
7	口腔の概要 歯の解剖学：永久歯(小臼歯)			
8	口腔の概要 歯の解剖学：永久歯(大臼歯)			
9	口腔の概要 歯の解剖学：乳歯総論、乳前歯			
10	口腔の概要 歯の解剖学：乳歯(乳犬歯、乳臼歯)			
11	口腔の概要 歯の解剖学：永久歯まとめ			
12	口腔の概要 歯の解剖学：歯冠、歯根、萌出、脱落の異常			
13	口腔の概要 歯の解剖学：歯列と咬合			
14	その他：顎関節			
15	その他：総括			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	10%			
小テスト	10%			
平常点	10%			
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科英語		講義	野口 扶美江	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 易しい外国語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。 2. 歯科衛生学に関連する外国語の専門用語のうち代表的なものを列挙できる。 3. 短い日本語を文法にかなった外国語に直すことができる。 4. 外国語による日常会話を聞いて内容を理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	① Making an Appointment by Telephone // 重要単語 ① 歯科医療に携わる者 ② 歯科学			
2	② Requests for Medicine // 重要単語 ③ 検査			
3	③ Emergency Appointments // 重要単語 ④ 痛みの種類			
4	④ National Health Insurance // 重要単語 ⑤ 全身疾患			
5	⑤ Asking the Patient to Describe Symptoms // 重要単語 ⑥ 歯科疾患			
6	⑥ Asking the Medical History // 重要単語 ⑦ 歯科治療			
7	⑦ Periodontal Disease Part 1			
8	⑦ Periodontal Disease Part 2			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	単語を覚え、英文を正確に理解できる事を評価する。		
レポート・課題				
小テスト	40%	各ユニット+重要単語の単語テスト		
平常点	10%	授業態度。特に積極的に聴き取ろう、話そう、読み解こうとする姿勢を評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯科英語	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
英和辞書必携! (紙 ○ / 電子辞書 ○ / スマホ ×)				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科衛生士概論		講義・演習	三村 明美・宮崎 歌苗・末光 妙子	
時間数（単位数）		授業回数	開講時期	
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次 前期	
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および倫理的思考法の基礎を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯科衛生業務の基盤となる歯科衛生学を習得する 2. (株) ミュゼプラチナムによるマナーと接遇を理解する				
授業計画				
回	内容			
1	歯科衛生士学とは			
2	(株) ミュゼプラチナムによる講義：末光			
3	(株) ミュゼプラチナムによる講義：末光			
4	歯科衛生士の歴史			
5	歯科衛生活動のための理論、歯科衛生過程			
6	歯科衛生士法と歯科衛生業務			
7	歯科衛生士と医療倫理			
8	歯科衛生士の活躍と組織、海外における歯科衛生士			
成績の評価方法及び基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科矯正学		講義	油谷 征彦	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状及び治療法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 顔面および歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる。 5. 矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。 2. 成長に伴う正常咬合を説明できる。 6. 矯正装置の種類、構造および機能を説明できる。 3. 不正咬合の原因と種類を列挙できる。 7. 矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。 4. 不正咬合による障害と矯正治療の目的を説明できる。 8. 治療前、治療中、保定期間の口腔健康管理法を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	1編1章 矯正歯科治療の概要			
2	1編2章 成長・発育			
3	1編3章 正常咬合と不正咬合			
4	1編4章 矯正歯科診断			
5	1編5章 矯正歯科治療と“力”-矯正力・顎整形力・保定			
6	1編6章 矯正装置			
7	II編1章 上下顎の前後的關係の不調和			
8	II編2章 上下顎の前後的關係の不調和 (過蓋咬合・開咬)			
9	II編3章 成人矯正			
10	II編4章 口腔学顔面の整形異常と変形			
11	II編5章 歯の埋伏と歯数の異常			
12	II編6章7章 矯正歯科治療時のトラブルへの対応・健康保険が適応される矯正歯科治療			
13	III編1章2章 矯正歯科診断にかかわる業務・矯正歯科診療時の業務			
14	III編3章 矯正歯科患者と口腔保険管理			
15	III編4章5章 口腔筋機能療法・器材、資料、文書の管理			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%			
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科材料学		講義	安岡 大介	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する。歯科材料学がひとつの独立した科目ではなく、歯科診療補助論や保存学、小児歯科、歯科矯正、補綴学など数多くの分野に深く関連していることに気づき、理解できるようになることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 歯科材料の基礎知識が説明できる。 2. 印象材、石膏の種類と用途、一般的性質が説明できる。 3. 合着材、接着剤、仮着材の種類と基本的性質が説明できる。 4. ワックス、金属、陶材、その他の歯科材料について説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	歯科材料の基礎知識			
2	歯科材料の基礎知識			
3	歯冠修復材・仮封材・暫間修復材			
4	印象材			
5	模型用材料			
6	合着材・接着材 と仮着用セメント			
7	新しい歯科材料・他の歯科治療用材料			
8	ワックス・金属・陶材・その他の歯科材料			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
平常点	10%			
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
世界一わかりやすい歯科材料入門	片岡有・川島貴重		デンタルダイヤモンド社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科診療補助 I		講義・演習	三村 明美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
45 時間 (2 単位)		23 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
さまざまなライフステージにおける歯科診療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯科診療補助の概要を説明できる。		5. 医療安全管理が説明できる。		
2. 患者への対応ができる。		6. 消毒・滅菌ができる。		
3. 診療時の共同動作ができる。		7. アルジネート印象材の練和ができる。		
4. 診療室の管理ができる。		8. 模型用材料の取り扱いができる。		
授業計画				
回	内容			
1	診療補助の概念	16	フォーハンド相互実習②	
2	医療安全、感染予防①	17	印象材1：アルジネート印象材	
3	感染予防②	18	印象材2：アルジネート印象材	
4	滅菌消毒	19	印象材3：アルジネート印象材	
5	感染予防③	20	印象材4：アルジネート印象材	
6	感染予防④	21	模型用材料1：石膏	
7	手指消毒、医療系廃棄物	22	模型用材料2：石膏	
8	診療室の基礎知識 1	23	まとめ	
9	診療室の基礎知識 2			
10	共同動作			
11	衛生材料の取り扱い 1			
12	衛生材料の取り扱い 2			
13	バキューム 1			
14	バキューム 2			
15	フォーハンド相互実習①			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	10%	規定通りに提出すること		
小テスト				
平常点	10%	授業・実習態度		
その他	10%	実技試験		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第4版	竹澤保政		永末書店	
歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト滅菌消毒洗浄	ICGH研究会編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態		担当教員名	
歯科診療補助Ⅱ		講義・演習		三村 明美	
時間数（単位数）		授業回数		年次	
45 時間（2 単位）		23 回		1 年次	
開講時期					
後期					
授業の目的・概要					
歯科診療補助について理解し実践するために、共同動作と、歯科材料の取り扱いを習得する。					
授業の到達目標					
1. 歯科材料の用途、特徴が説明できるようになる。 5. フォーハンドシステムの基本動作ができる。 2. 歯科材料の取り扱いができる。 3. ラバーダム防湿の目的と用途を説明できる。 4. ラバーダム防湿を実施できる。					
授業計画					
回	内容				
1	その他の印象材1		16	ラバーダム防湿1：マネキン	
2	その他の印象材2		17	ラバーダム防湿1：マネキン	
3	その他の印象材3		18	ラバーダム防湿1：マネキン	
4	その他の印象材4		19	矯正歯科診療の診療補助1	
5	歯科材料の取り扱い：歯間分離		20	矯正歯科診療の診療補助2	
6	歯科材料の取り扱い：隔壁法		21	歯内療法の診療補助1	
7	歯科材料の取り扱い：合着材・接着剤1		22	歯内療法の診療補助2	
8	歯科材料の取り扱い：合着材・接着剤2		23	まとめ	
9	歯科材料の取り扱い：仮封材・仮着材				
10	歯科材料の取り扱い：歯周パック				
11	共同動作：演習1				
12	共同動作：演習2				
13	歯科材料の取り扱い：歯冠修復材料1				
14	歯科材料の取り扱い：歯冠修復材料2				
15	ラバーダム防湿1：マネキン				
成績の評価方法と基準					
種別	割合	評価基準・その他備考			
筆記試験	70%				
レポート・課題	20%				
小テスト					
平常点	10%				
その他					
自由記載					
教科書					
書名	著者・編集者名			出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社	
第4版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎	竹澤保政			永末書店	
自由記載					
参考文献					
書名	著者・編集者名			出版社名	
なし					
自由記載					
備考					

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科保健指導 I		講義・演習	宮崎 歌苗	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
1. 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。 2. 歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解する。 3. 口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術、態度を習得する。				
授業の到達目標				
1. 歯科保健指導の定義を説明できる。 2. 歯科保健指導の法的な位置づけを説明できる。 3. 健康の概念および予防の概念を説明できる。 4. 歯ブラシの種類と特徴を説明できる。 5. 各種ブラッシング方法の特徴を説明し、実施できる。 6. 補助清掃用具の種類、特徴、適応を説明し、操作できる。 7. 歯垢染色法を説明し、実施できる。 8. 口腔清掃状態の指数を説明できる。 9. 口腔清掃状態の指数を用いて口腔清掃状態を評価できる。				
成績の評価方法と基準				
回	内容			
1	総論			
2	歯科保健指導の基礎①			
3	歯科保健指導の基礎②			
4	歯垢染色法			
5	歯垢染色法① (錠剤・含嗽法)	演習		
6	歯垢染色法② (綿棒塗布法)	演習		
7	歯垢染色法③ (綿球塗布法)	演習		
8	口腔清掃状態の評価① (PCR)			
9	口腔清掃状態の評価② (OHI, OHI-S)			
10	口腔清掃状態の評価③ (PHP)			
11	口腔衛生管理に関する清掃用具① (歯ブラシ)			
12	口腔衛生管理に関する清掃用具② (歯間部清掃用具)			
13	口腔衛生管理に関わる指導 (各種ブラッシング方法) ①	講義・演習		
14	口腔衛生管理に関わる指導 (各種ブラッシング方法) ②	講義・演習		
15	歯ブラシ検討 (グループワーク)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	10%	課題への取り組み、内容の評価		
小テスト				
平常点				
その他	10%	実技試験 (ブラッシング法)		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科保健指導Ⅱ		講義・演習	塩崎 啓子・三村 明美・八尾 典江	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
健康支援として、人々の歯、口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な知識・技術・態度を習得する事を目的とする。各ライフステージに応じた歯科保健活動を円滑に実践するために必要な、専門的な知識、技術および態度を習得する。				
授業の到達目標				
1. 口腔衛生管理（口腔ケア）に用いる清掃用具の特徴を説明できる。 2. 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる。 3. 健康を維持するための栄養情報を説明できる。 4. 各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴及び歯科保健行動を説明できる。 5. 各ライフステージ別の口腔衛生指導を説明できる。 6. 各ライフステージ別の食生活指導を説明できる。 7. 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。 8. 非感染性疾患（NCDs）の種類と特徴および口腔との関連を説明できる。 9. ストレスマネジメントを説明できる。 10. 対象者に合わせた口腔衛生管理に用いる清掃用具の選択および使用ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	口腔衛生管理に関する清掃用具（口腔ケア用具）			
2	口腔衛生管理に関わる指導（化学的清掃法）			
3	食生活指導のための基礎知識			
4	ライフステージ別保健指導・妊産婦期			
5	ライフステージ別保健指導・新生児期			
6	ライフステージ別保健指導・乳児期			
7	ライフステージ別保健指導・幼児期			
8	ライフステージ別保健指導・学齢期			
9	口腔機能の発達に関する指導			
10	ライフステージ別保健指導・青年期			
11	ライフステージ別保健指導・成人期			
12	非感染性疾患（NCDs）と生活習慣指導、ストレスマネジメント			
13	補綴物装着者の口腔衛生管理に関わる指導			
14	術者磨き 演習 ①			
15	術者磨き 演習 ②			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	20%	課題への取り組み、内容の評価		
小テスト				
平常点	10%	授業（実習）態度		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 保健生態学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 小児歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科補綴学		講義	徳田 進之介	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯および歯列の形態と位置的関係、顎口腔系の機能、咬合を説明できる。 2. 補綴装置の種類と適応を説明できる。 3. 支台装置とポンティックの選択、特徴、製作法を概説できる。 4. 有床義歯の支持装置、把持装置、維持装置を説明できる。 5. 補綴治療に用いられる器材を説明できる。 6. 補綴治療の臨床ステップ、技工操作を概説できる。 7. 補綴装置製作のための咬合採得に用いる材料と取り扱い方を説明できる。 8. 咬合採得する下顎位と咬合採得法を概説できる。 9. 義歯の調整、リライニング、リベース、修理を概説できる。 10. 補綴処置後のメンテナンスの重要性を説明できる。 11. ブリッジの特徴、構成を説明できる。 12. プロビジョナルレストレージョンの概要を説明できる。 13. インプラントの特徴を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	補綴とは			
2	補綴治療の種類と材料			
3	補綴治療における衛生士の役割			
4	補綴治療の基礎知識			
5	クラウンブリッジ治療の概要			
6	支台築造			
7	プロビジョナルレストレージョン製作実習①			
8	プロビジョナルレストレージョン製作実習②			
9	ブリッジの特徴と構成			
10	クラウンブリッジ治療に伴うトラブルとその対応			
11	有床義歯治療の概要			
12	インプラント治療の概要			
13	全部床義歯			
14	部分床義歯			
15	有床義歯の修理とリライニング			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%	補綴治療の基礎知識が理解できているかを評価する		
レポート・課題	10%	実習内容のレポートを評価する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名	授業形態	担当教員名	
歯科臨床概論	講義	木村 英訓	
時間数（単位数）	授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）	8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要			
歯科医療の意味を理解し、歯科臨床の基礎的知識を習得することにより、歯科診療での歯科衛生士の役割を理解し、説明できることを目的とする。			
授業の到達目標			
1. 歯科診療とは何かを理解する。		5. 小児歯科、歯科矯正の概要を理解する。	
2. 歯科診療所とその業務について理解する。		6. 口腔外科についての概要を理解する。	
3. ライフステージと歯科診療について理解する。		7. 歯科保存、歯周治療、歯科補綴の概要を理解する。	
4. 歯科診療の診査・検査・前処置を知る。		8. 障害者歯科、高齢者歯科の概要を理解する。	
授業計画			
回	内容		
1	歯科診療の概要と歯科診療所のスタッフ、歯科診療所の設備について		
2	歯科診療所における業務（チームアプローチ）や安全管理について		
3	ライフステージごとの歯科衛生士の役割について		
4	日常歯科臨床における主な診療の流れについて		
5	小児歯科および矯正歯科の概要について		
6	口腔外科の概要について		
7	保存治療、歯周治療、補綴治療の概要について		
8	障害者歯科、高齢者歯科の概要について		
成績の評価方法と基準			
種別	割合	評価基準・その他備考	
筆記試験			
レポート・課題			
小テスト			
平常点	50%	積極的に発言し、授業に参加できていたかを評価します。	
その他	50%	課題	
自由記載	課題提出と授業への積極性で評価します。		
教科書			
書名	著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版	松井恭平	医歯薬出版株式会社	
自由記載			
参考文献			
書名	著者・編集者名	出版社名	
なし			
自由記載			
備考			
全て授業において、講師が話すだけでなく、できるだけ生徒参加型にしたいと思います。概論ですので、衛生士という素敵で明るい未来が待っているということをお伝えしたいと思います。			

科目名		授業形態	担当教員名	
歯周病学		講義	神尾 雅之	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生士業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯周病の種類と症状を説明できる。		5. 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。		
2. 歯周治療の流れを説明できる。		6. 歯周外科手術の介助の概要を説明できる。		
3. 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。		7. 口腔機能回復治療の概要を説明できる。		
4. 歯周初期治療の術式と適応症を説明できる。		8. 歯周治療後の再評価ができ、SPTを説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	歯周病の基礎 正常解剖 歯周組織 インプラント周囲組織			
2	歯周病の分類 歯周病とは？			
3	歯周病の原因 ペリオドンタルメディシン			
4	歯周治療① 医療面接 基本的検査			
5	歯周治療② 治療計画立案 治療開始			
6	歯周治療③ 歯周基本治療 歯周外科治療			
7	歯周治療④ 歯周外科治療			
8	歯周治療⑤ 口腔機能回復治療 メインテナンス			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	85%	国家試験に準じた試験		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	15%	歯科衛生士を目指す医療人として 学問への姿勢		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態		担当教員名	
歯周病予防処置 I		講義・演習		八尾 典江	
時間数 (単位数)		授業回数		年次	
45 時間 (2 単位)		23 回		1 年次	
開講時期					
前期					
授業の目的・概要					
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。					
授業の到達目標					
1. う蝕の基礎知識を説明できる。		5. 診査の結果を説明できる。			
2. 歯周病の基礎知識を説明できる。		6. スケーラーの種類と使用目的を説明できる。			
3. 歯・歯肉・口腔の検査ができる。		7. シックルタイプスケーラーを操作できる。			
4. プローブの種類と操作方法を説明できる。					
授業計画					
回	内容				
1	歯科予防処置と概要	講義	16	プロービング	相互演習
2	口腔の基礎知識	講義	17	シックルスケーラーについて	講義
3	口腔の付着物と沈着物	講義	18	シックルスケーラー 操作法	演習
4	歯周病の基礎知識	講義	19	シックルスケーラー 操作法	演習
5	ミラーピンセットの使い方	講義 演習	20	シックルスケーラー 操作法	演習
6	ミラーピンセットの使い方	講義 演習	21	シックルスケーラー 操作法	演習
7	ポジショニング	講義	22	シックルスケーラー 操作法	演習
8	ポジショニング	演習	23	シックルスケーラー 操作法	演習
9	歯・歯周組織の診査	講義			
10	歯・歯周組織の診査	演習			
11	歯・歯周組織の検査	プロービング 講義			
12	歯・歯周組織の検査	プロービング 演習			
13	プロービング	演習			
14	プロービング	演習			
15	プロービング	相互演習			
成績の評価方法と基準					
種別	割合	評価基準・その他備考			
筆記試験	60%				
レポート・課題	10%	毎回規定通りに提出すること			
小テスト					
平常点	20%	授業態度10%・身だしなみ10%			
その他	10%	実技テスト			
自由記載					
教科書					
書名	著者・編集者名			出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社	
自由記載					
参考文献					
書名	著者・編集者名			出版社名	
特に指定しない					
自由記載					
備考					

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態		担当教員名	
歯周病予防処置Ⅱ		講義・演習		八尾 典江	
時間数（単位数）		授業回数		年次	開講時期
45 時間（2 単位）		23 回		1 年次	後期
授業の目的・概要					
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。					
授業の到達目標					
1. シックルタイプスクレーラーを操作できる。 2. キュレットタイプスクレーラーを操作できる。 3. シャープニングができる。 4. 歯面研磨の意義を説明できる。			5. 歯面研磨材の種類と用途を説明できる。 6. 歯面研磨ができる。 7. ヒトの口腔内でプロービングができる		
授業計画					
回	内容				
1	シックルスケーラー操作法	講義	16	歯面清掃・歯面研磨	講義
2	シックルスケーラー操作法 まとめ	演習	17	歯面清掃・歯面研磨	演習
3	キュレットスクレーラーについて	講義	18	歯面清掃・歯面研磨	ウェルテック(株)
4	キュレットスクレーラー操作法① 上下顎前歯	演習	19	歯面清掃・歯面研磨	ウェルテック(株)
5	キュレットスクレーラー操作法② 上下顎右側臼歯部	演習	20	歯面清掃・歯面研磨（上顎）	相互演習
6	キュレットスクレーラー操作法③ 上下顎左側臼歯部	演習	21	歯面清掃・歯面研磨（上顎）	相互演習
7	キュレットスクレーラー まとめ		22	歯面清掃・歯面研磨（下顎）	相互演習
8	キュレットスクレーラー まとめ		23	歯面清掃・歯面研磨（下顎）	相互演習
9	シャープニング	講義			
10	シャープニング	演習			
11	プロービング(復習)	演習			
12	プロービング(上顎)	相互演習			
13	プロービング(上顎)	相互演習			
14	プロービング(下顎)	相互演習			
15	プロービング(下顎)	相互演習			
成績の評価方法と基準					
種別	割合	評価基準・その他備考			
筆記試験	60%				
レポート・課題	10%	毎回規定通りに提出すること			
小テスト					
平常点	10%	授業態度・身だしなみ			
その他	20%	実技テスト			
自由記載					
教科書					
書名	著者・編集者名			出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社	
自由記載	必要に応じてプリントを配布する				
参考文献					
書名	著者・編集者名			出版社名	
特に指定しない					
自由記載					
備考					

科目名		授業形態	担当教員名	
歯内療法学		講義	谷田 英輔	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する事を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯内療法の対象となる歯髄炎, 根尖性歯周炎について説明できる。 2. 治療の術式, 使用器具, 使用薬剤について説明できる。 3. 根尖性歯周組織疾患 (感染根管) を説明できる。 4. 根管治療に用いる器材の使用法を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状・検査法			
2	歯髄の保存療法 (覆髄法)			
3	歯髄の除去療法			
4	根尖性歯周組織疾患 (感染根管) の概念と治療法			
5	根管治療に用いる器材の種類と使用法 根管充填法			
6	根未完成歯の処置法			
7	外科的歯内療法の種類・適応症とその処置法 外傷歯の治療法			
8	歯内療法における偶発事故とその防止策			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
小児歯科学		講義	佐々木 有美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生士業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療の理解を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 小児の正常な身体的成長発育とその障害を説明できる。 2. 成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。 3. 歯列および咬合の正常発育とその障害を説明できる。 4. 乳歯と幼若永久歯の解剖学特徴を説明できる。 5. 小児う蝕の特徴、う蝕予防および進行抑制法を説明できる。 6. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法、歯内療法を説明できる。 7. 小児の口腔外科疾患と外傷の種類と処置法を説明できる。 8. 咬合誘導の概念、保険装置の種類、適応症を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	小児歯科学概論（p.2-5）：[小児歯科学とは] 小児の心身の発育（p.6-11）：[発育の概念と分類、発育状態の評価、生理的年齢]			
2	小児の心身の発育（p.11-19）[器官の発育、精神発達] 小児の生理的特徴（p.20-22）[バイタルサイン、薬剤処方]			
3	顔面頭蓋の発育（p.23-30）：[脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化、脳頭蓋の発育の特徴、顔面頭蓋の発育の特徴、発育の評価法] 歯の発育とその異常（p.31-39）：[乳歯・幼若永久歯の特徴、歯の形成、歯の形成異常]			
4	歯の発育とその異常（p.39-42）：[歯の萌出] 歯列と咬合の発育とその異常（p.43-52）：[歯列・咬合の発育、歯列・咬合の異常]			
5	小児の歯科疾患（p.53-65）：[小児のう蝕、小児の歯周疾患、小児に認められる口腔軟組織の異常]			
6	小児虐待（p.66-72）：[小児虐待とは、虐待の起こる背景、歯科衛生士からのアプローチ] 小児期の特徴と歯科的問題点（p.74-77）：[成人に対する小児のとらえ方、小児期の特徴と特徴的歯科疾患] 患者との対応法（p.78-86）：[患者・保護者との関係、診療室における小児の態度と行動、子どもへの対応法、歯科治療時の対応法]			
7	患者との対応法（p.86-95）：[行動変容法] 小児歯科における診療体系（p.96-105）：[特徴、原則、診査・診断]			
8	小児歯科における診療体系（p.105-110）：[母親教室]			
9	小児歯科における診療体系（p.110-124）：[麻酔法、ラバーダム、隔壁、歯冠修復]			
10	小児歯科における診療体系（p.124-137）：[小児の歯内療法]			
11	小児における診療体系（p.137-152）：[小児の外科処置、咬合誘導、フッ化ジアンミン銀]			
12	小児における診療体系（p.152-153）：[リコール] 障害児の歯科治療（p.154-162）：[障害児に対する歯科的対応、障害とその特徴]			
13	障害児の歯科治療（p.162-168）：[障害児への対応、小児の摂食・嚥下障害] う蝕予防（p.169-185）：[ブラークコントロール、フッ化物の利用、フィッシャーシーラント]			
14	う蝕予防（p.184-190）：[代用糖、食事指導] 小児の保健管理（p.191-199）：[3歳まで齲蝕を経験させない、第一大臼歯をう蝕にしない] 診療室と機材の管理（p.200-204）：[診療室の管理、器材の管理]			
15	これまでのまとめと授業の復習、テスト対策			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	授業始めに前回授業の復習テスト。ノートとプリント提出。授業態度。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 小児歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
2～14回は、授業の始めに前回の授業内容についてチェックテストを実施します。 成績に反映されますので前回授業の復習は必ず行ってください。				

科目名		授業形態	担当教員名	
障害者歯科学		講義	吉松 英樹	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する事を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 障害の概念が説明できる。		4. 障害者歯科における医療安全を説明できる。		
2. 障害の種類・歯科的特徴、歯科保健医療の留意点を説明できる。		5. 障害児の保健・医療・福祉制度を説明できる。		
3. 障害者の歯科治療を説明できる。		6. 障害児者の摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	障害者および障害者歯科の定義。ノーマライゼーションについて。			
2	障害者のある人の医療保健制度。			
3	精神発達・心理的発達・行動障害・運動障害を有する人の歯科治療。			
4	感覚障害・音声言語障害・精神および行動の障害を有する人の歯科治療。			
5	コミュニケーション法・障害のある人への行動調整。			
6	行動療法・体動コントロール・薬物的行動調整。医療安全について。			
7	障害者本人および介護者による口腔衛生管理。			
8	摂食嚥下リハビリテーションについて。			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%	記述（穴埋め）		
レポート・課題				
小テスト	30%	記述（穴埋め）		
平常点	10%	授業態度		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
情報処理		講義・演習	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>我々は医療専門職者として、患者の個人情報の取り扱いや電子カルテの操作など、情報を法の下で取り扱ったり管理する立場となる。</p> <p>本講座では、情報社会における様々な問題点を理解することで安全な情報管理が行えること、またワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトに触れながら、パソコンスキルの向上を目指すことを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会における倫理を理解し、日常的な実践に繋げる。 2. 情報に関する法と責任を理解する。 3. 情報セキュリティを理解し、日常的な実践に繋げる。 4. 各種ソフトを用い、基本的なレポート作成やデータの集計、プレゼン資料作成ができるようになる。 				
授業計画				
回	内容			
1	医療関係者と個人情報			
2	ネットにおけるマナー			
3	【パソコンスキルの修得（Word 1）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
4	【パソコンスキルの修得（Word 2）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
5	【パソコンスキルの修得（Word 3）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
6	【パソコンスキルの修得（Word 4）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
7	【パソコンスキルの修得（Excel 1）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
8	【パソコンスキルの修得（Excel 2）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
9	【パソコンスキルの修得（Excel 3）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
10	【パソコンスキルの修得（Excel 4）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
11	【パソコンスキルの修得（Excel 5）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
12	【パソコンスキルの修得（Power Point 1）】操作方法を学ぶ・課題（プレゼンテーション）の作成			
13	【パソコンスキルの修得（Power Point 2）】操作方法を学ぶ・課題（プレゼンテーション）の作成			
14	【パソコンスキルの修得（Power Point 3）】操作方法を学ぶ・課題（プレゼンテーション）の作成			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	パソコンに関する課題、テーマに応じたレポート等 提出物の出来具合で評価する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
授業の進捗状況によって変更が生じる場合があります。パソコンで作成したデータを保存できるように、USBメモリーを各自用意してください。				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
情報統計学		講義	上田 博司	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 口腔内からの保健情報の収集方法を説明できる。 2. 歯科疾患の指標について説明できる。 3. 保健情報の分析について説明できる。 4. 情報の保護と倫理について理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	本科目の目的と概要 保健情報と保健統計 (1章-1) : 保健情報・保健統計とは、保健情報の種類			
2	保健情報と保健統計 (1章-2) : 保健情報の種類 (EBMの手順)、国家統計調査			
3	保健情報と疫学 (2章-1) : 疫学とは、健康障害の発生要因			
4	保健情報と疫学 (2章-2) : 疫学の方法論、スクリーニング (疾病と検査との関係)			
5	歯科疾患の指数 (3章-1) : 数量化と指数について、指数 (う蝕)			
6	歯科疾患の指数 (3章-2) : 指数 (歯周疾患、口腔清掃状態)			
7	歯科疾患の指数 (3章-3) : 指数 (不正咬合と歯列不正の指数、歯のフッ素症、その他の歯科保健指標)			
8	保健情報の分析手順 (4章-1) : 保健情報の収集、調査			
9	保健情報の分析手順 (4章-2) : 母集団と標本抽出			
10	保健統計の方法 (5章-1) : データの特性、記述統計 (代表値、散布度、相関)、推定と信頼区間			
11	保健統計の方法 (5章-2) : 検定、保健情報の多変量解析、その他			
12	保健情報の分析演習 (6章-1) : 解析と検定の演習			
13	保健情報の分析演習 (6章-2) : プレゼンテーション : データの表現			
14	情報の保護と倫理 (7章) : 情報社会の特性と問題点、情報の開示、個人情報の保護、インターネットと情報倫理			
15	情報統計学 (まとめ)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	40%	保健分野における情報統計を理解し、歯科指数の取得、統計やプレゼンテーションが適切に行える。		
レポート・課題	10%	各章終了時に学習到達目標を達成しているか自己判断を行う。		
小テスト	35%	各章の終了時にその内容の理解度を確認する (全7回)。		
平常点	15%	受講態度、授業内の演習等への積極的な取り組みを評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
心理学		講義	尾崎 勝彦	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
良好な対人関係(对患者、対同僚、対歯科医等)を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。更に直接対人接触職である医療者として、人間とは何か、を考えることができるようになる。				
授業の到達目標				
1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考およびパーソナリティとの関係を概説できる。 2. 動機づけを概説できる。 3. 欲求とフラストレーション・葛藤との関連を概説できる。 4. 人生や日常生活におけるストレスを概説できる。 5. こころの健康に対する支援を概説できる。 6. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴を概説できる。 7. こころの発達にかかわる要因を概説できる。 8. パーソナリティの特徴を概説できる。 9. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを説明できる。 10. 文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを列挙できる。 11. 話し手と聞き手の役割を説明でき、適切にコミュニケーションできる。 12. 対人関係にかかわる心理的要因と行動を概説できる。 13. 知能の発達の経年的変化を概説できる。 14. 集団の中の人間関係を概説できる。				
授業計画				
回	内容			
1	心理学の立場・考え方・研究方法(第15章)			
2	①知覚と感覚；知覚の成立、体制化、諸相、錯視 ②記憶の種類 (第1,2章)			
3	学習；レスポンド条件付け、オペラント条件付け、その他の学習(第2章)			
4	①動機づけ 内発的/外発的、社会的、欲求(第3章) ②感情とストレス(第4章)			
5	①パーソナリティー 類型論と特性論(第5章) ②知能 知能と知能テスト(第6章)			
6	発達理論 主な発達理論(第8,9章)			
7	対人認知 対人魅力、社会的影響(第10,11章)			
8	カウンセリングと心理療法(第12~14章)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	基礎的な理解ができているか		
レポート・課題	15%	書式に従っているか、内容は妥当か		
小テスト				
平常点				
その他	5%	グループワーク、ペアワークへの参加		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 心理学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載	補足教材としてプリントも多用するので、プリントの整理をきちんとしておくこと。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
よくわかる臨床心理学	山口創		川島書店	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生化学・口腔生化学		講義	長谷川 菜摘・三好 真琴	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、人体の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。口腔における生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、口腔における物質の代謝と機能に関する基本的知識を習得することを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 生体の構成要素を説明できる。 2. 生体における化学反応を説明できる。 3. エネルギー代謝を説明できる。 4. 物質の代謝を説明できる。 5. 歯と歯周組織の生化学を理解する。 6. 硬組織の生化学を理解する。 7. 唾液の生化学を理解する。 8. デンタルプラークの生化学を理解する。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	生体の構成要素			
2	生体における化学反応			
3	糖質の代謝			
4	脂質の代謝			
5	タンパク質とアミノ酸の代謝			
6	歯と歯周組織の生化学			
7	硬組織の生化学			
8	唾液の生化学			
9	プラークの生化学：プラークの生物活性とう歯			
10	プラークの生化学②：プラークによる歯周疾患発症機構			
11	栄養の基礎知識			
12	食事摂取基準			
13	栄養素の働き			
14	食生活と健康			
15	食べ物と健康			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	基本的知識の習得度とともに知識を基盤にした応用能力を判定し、総合的に評価する。		
レポート・課題				
小テスト	40%	講義内容の理解度をその都度評価する。		
平常点	10%	授業への取り組み度を評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生物学		講義	沖田 章子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
生体の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 真核細胞の基本的構造と機能を概説できる。		6. 遺伝子および染色体の構造を説明できる。		11. 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。
2. 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。		7. 減数分裂における染色体の挙動を説明できる。		
3. 細胞分裂と細胞周期を概説できる。		8. DNAの複製と修復の機序を説明できる。		
4. 酵素の構造、機能および代謝調節を説明できる。		9. 転写と翻訳の過程を説明できる。		
5. 細胞呼吸とエネルギー産生を説明できる。		10. 遺伝子型と表現型の関係を説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 学習の進め方 生物とは何か			
2	現代を生きる生命 細胞とDNA			
3	現代を生きる生命 ゲノム			
4	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生			
5	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生と遺伝子			
6	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 遺伝子と科学技術			
7	感じ、動くためのしくみ 感覚と神経			
8	感じ、動くためのしくみ 神経系			
9	生きるためのしくみ 代謝			
10	生きるためのしくみ 循環			
11	子孫を増やすしくみ 生殖			
12	環境に適応するしくみ 外的環境への適応			
13	環境に適応するしくみ 免疫			
14	生命が社会を営むしくみ 社会性を生み出す脳			
15	問題演習とまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	生物の基礎となるしくみを理解できているか評価する。		
レポート・課題	20%	授業内容の理解度と課題に取り組む姿勢をもとに評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
みんなの生命科学 第2版	北口哲也 他	化学同人		
フォトサイエンス 生物図録 新課程 改訂版	嶋田正和 他監	数研出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
予習として教科書や図録を用いて生物用語の確認をすること、日常生活の中で医療や科学の話題に関心を持つことを希望する。				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
微生物学・口腔微生物学		講義	塩屋園 敦	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
感染症の原因となる微生物の基本的性状や病原性、および感染症に対する生体防御機構について基本的知識を習得する。				
授業の到達目標				
1. 感染・感染症について理解できる。 2. 微生物・口腔微生物について理解できる。 3. 免疫について理解できる。 4. 滅菌・消毒および院内感染対策について理解できる。 5. 化学療法について理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	微生物学概論・細菌の一般性状			
2	主な病原性細菌①			
3	主な病原性細菌②・その他の微生物			
4	ウイルスの性状①			
5	ウイルスの性状②			
6	宿主防御機構			
7	液性免疫と細胞性免疫			
8	アレルギー・化学療法			
9	復習テスト①・解説			
10	院内感染対策と滅菌・消毒			
11	口腔微生物学～口腔細菌叢・バイオフィルムとしてのプラーク			
12	口腔感染症①～う蝕・歯肉感染症			
13	口腔感染症②～歯周病			
14	口腔感染症③～その他の口腔感染症			
15	復習テスト②・解説			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	正誤問題、四肢択一問題で出題		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	復習テストは評価に含まない。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
イラストでわかる微生物学超入門	斎藤光正		南山堂	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
病理学・口腔病理学		講義	重岡 学	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>【病理学総論】病気の原因と発生機序、それに伴う形態学的変化の体系の基礎を講義する。 【口腔病理学】顎口腔に見出される主要な疾病に関する講義を行う。</p>				
授業の到達目標				
<p>【病理学総論】様々な病的刺激(病因)に対して惹起される生体反応が遺伝性疾患と奇形、循環障害、代謝障害と退行性病変、増殖と修復、炎症と免疫反応および腫瘍に分類されることを理解し、それぞれの形態学的特徴と病理発生が説明できる。 【口腔病理学】ヒトの顎口腔に発生する様々な疾患の病因、病理発生、病理形態学的変化を病理学総論の概念に従って説明することができる。主要な病変については臨床との関係を重視しつつ把握する。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	I 編 病理学総論 1 章・2 章（病理学序論と病因論／遺伝性疾患と奇形）			
2	I 編 病理学総論 3 章（循環障害）			
3	I 編 病理学総論 4 章・5 章（代謝障害と退行性病変／増殖と修復）			
4	I 編 病理学総論 6 章（炎症と免疫応答）			
5	I 編 病理学総論 7 章（腫瘍）			
6	II 編 口腔病理学 1 章・2 章（歯の発育異常／歯の損傷と着色・付着物）			
7	II 編 口腔病理学 3 章（う蝕）			
8	II 編 口腔病理学 4 章（象牙質・歯髄複合体の病態）			
9	II 編 口腔病理学 5 章（歯周組織の病態）			
10	II 編 口腔病理学 6 章（口腔粘膜の病変）			
11	II 編 口腔病理学 7 章・8 章（口腔領域の嚢胞と腫瘍／口腔癌）①			
12	II 編 口腔病理学 7 章・8 章（口腔領域の嚢胞と腫瘍／口腔癌）②			
13	II 編 口腔病理学 9 章・10 章（顎骨の病変／唾液腺の病変）			
14	II 編 口腔病理学 11 章・12 章（口腔の奇形／口腔組織の加齢変化）			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%	授業態度や積極性によって評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育		実技・講義	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>様々なスポーツ種目の実践を通し、スポーツの楽しさを味わったり、クラスメートとの親睦を図れることを目指したい。</p> <p>また、スポーツの必要性や安全面を理解し実践に活かせる態度を養成することや、健康とスポーツに関連するトピックについて講義を通して、スポーツへの興味や関心を高めさせたい。</p>				
授業の到達目標				
<p>スポーツをすることの意義を知り、身体を動かすことの楽しさを味わうこと、健康やスポーツについて、興味関心を深めることを目標とする。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	講義：スポーツ活動における我が国の現状			
2	実技：ニュースポーツ1-1（アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等）			
3	実技：ニュースポーツ1-2			
4	実技：球技1-1（バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等）			
5	実技：球技1-2			
6	実技：球技1-3			
7	講義：減量について考える			
8	実技：球技2-1（バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等）			
9	実技：球技2-2			
10	実技：球技2-3			
11	講義：熱中症とその予防			
12	実技：ニュースポーツ2-1（アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等）			
13	実技：ニュースポーツ2-2			
14	実技：ニュースポーツ2-3			
15	講義：健康づくりのために必要なもの			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	進捗や講義内容によっては、レポートに置き換えることがある。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	参考文献は定めないが、必要に応じて指示することがある。			
備考				
<p>実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外し、貴重品類は盗難防止のためグランドや講堂には持ってこないこと。</p> <p>けがや病気で実技ができない場合は報告・相談すること。</p> <p>天候や進捗、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。</p>				

科目名		授業形態	担当教員名	
保存修復学		講義	谷田 英輔	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 保存修復学分野の診療に際し必要な知識を取得し、各修復法の目的を理解し説明できる。 2. 治療に必要な器材、材料の使用方法についての知識を習得し、説明できる。 3. 修復法の種類（直接修復・間接修復）と特徴を説明できる。 4. 歯の切削器械・器具の種類と特徴を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯の硬組織疾患の種類と原因、予防法、処置法			
2	う蝕治療の流れとその前準備の概要			
3	窩洞の構成と名称、分類と窩洞形態の原則 Minimal Intervention Dentistry(MID)の意義			
4	修復処置に使用する機材の概要			
5	修復法の種類（直接修復・間接修復）と特徴			
6	歯の切削器械・器具の種類と特徴 歯の変色の原因と処置法（歯の漂白）			
7	象牙質知覚過敏症の症状と原因、処置法			
8	修復処置後の不快事項とメンテナンス			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
薬理学・歯科薬理学		講義	大石 美恵	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 医療と薬物について説明できる。 2. 身体と薬物について説明できる。 3. 医薬品の分類を説明できる。 4. 薬物の取り扱いを説明できる。		5. 主な薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。 6. 歯・歯髄疾患と薬について説明できる。 7. 歯周疾患と薬について説明できる。 8. 服薬に関する一般的事項を説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	総論1 薬物の作用 薬物動態			
2	総論2 薬物の適用方法の種類と特徴 薬物の作用に影響を与える要因 薬物の副作用、有害作用			
3	総論3 医薬品を適用する際の注意 薬物の取り扱い 薬物と法律・薬物と医薬品			
4	各論1 ビタミンとホルモン 末梢神経系に作用する薬物			
5	各論2 中枢神経系に作用する薬物			
6	各論3 循環器系に作用する薬物 腎臓に作用する薬物 呼吸器系に作用する薬物			
7	各論4 消化器系に作用する薬物 血液に作用する薬物 免疫と薬			
8	各論5 悪性腫瘍と薬 代謝性疾患治療薬			
9	各論6 炎症と薬 痛みと薬 局所麻酔薬			
10	各論7 抗感染症薬 消毒に使用する薬物			
11	各論8 う蝕予防薬 歯内療法薬 歯周疾患治療薬			
12	各論9 顎・口腔粘膜疾患と薬 漢方医学と薬物			
13	その他の疾患1 皮膚障害 視覚障害 水分/電解質/カロリー不足			
14	その他の疾患2 性・生殖機能障害 泌尿器・生殖腺機能障害			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	薬の基礎的な知識、主な疾病の回復を促進する薬に関する基本的理解を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載	予習・復習することを望みます。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハベータシク 薬理学・臨床薬理学	内山靖・藤井浩美 他		医歯薬出版株式会社	
ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学	赤瀬智子・柳田俊彦		メディカ出版	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床指導教育 I		講義	八尾 典江・三村 明美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
学内実習を行うにあたって、必要な心得、規定を学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 実習室の使い方を習得する。 2. 実習用模型の取り扱いを習得する。 3. 学内実習時のチェアー清拭を習得する。				
授業計画				
回	内容			
1	基礎実習室の使い方			
2	実習用模型の取り扱い			
3	(株) モリタ ユニットの取り扱い			
4	タカラベルモント (株) ユニットの取り扱い			
5	チェアー清拭			
6	チェアー清拭			
7	相互実習			
8	相互実習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	60%	規定通りに提出すること		
小テスト				
平常点	20%	身だしなみ10% 授業態度10%		
その他	20%	実技テスト		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	プリントを配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態		担当教員名	
う蝕予防処置		講義・演習		八尾 典江・三村 明美・宮崎 歌苗	
時間数（単位数）		授業回数		開講時期	
45 時間（2 単位）		23 回		2 年次 前期	
授業の目的・概要					
う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術、および態度を習得する。					
授業の到達目標					
1. う蝕予防処置の基礎知識について説明できる。 2. う蝕活動性試験を実施し、評価できる。 3. フッ化物歯面塗布法を実施できる。 4. フッ化物洗口法の基礎知識を説明できる。 5. フッ化物配合歯磨剤の基礎知識を説明できる。			6. 小窩裂溝填塞法の基礎知識を説明できる。 7. 小窩裂溝填塞法を実施できる。 8. う蝕予防処置におけるメンテナンスの必要性を説明できる。 9. 臨床実習での器材準備ができる。		
授業計画					
回	内容				
1	う蝕の知識	講義	16	全国小学校歯磨き大会	
2	う蝕の基礎知識 食品とう蝕誘発性	講義	17	全国小学校歯磨き大会	
3	フッ化物総論	講義	18	登院試験 1	
4	フッ化物総論	講義	19	登院試験 2	
5	フッ化物局所応用法（ホームケア）	講義	20	登院試験 3	
6	フッ化物局所応用法（ホームケア）	演習	21	登院試験 4	
7	フッ化物局所応用法（ホームケア）	演習	22	登院試験 5	
8	フッ化物取り扱い	講義	23	登院試験 6	
9	フッ化物局所応用法	講義・演習			
10	フッ化物局所応用法	講義・演習			
11	小窩裂溝填塞法	講義			
12	小窩裂溝填塞法	演習			
13	う蝕活動性試験	講義			
14	う蝕活動性試験	演習			
15	う蝕活動性試験	講義・演習			
成績の評価方法と基準					
種別	割合	評価基準・その他備考			
筆記試験	50%				
レポート・課題	30%	毎回規定通りに提出すること			
小テスト					
平常点	10%	授業態度・身だしなみ			
その他	10%	実技テスト			
自由記載	必要に応じてプリントを配布する				
教科書					
書名	著者・編集者名		出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社		
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社		
自由記載					
参考文献					
書名	著者・編集者名		出版社名		
特に指定しない					
自由記載					
備考					

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
チーム医療		講義	鈴木保・林田健・山本雅美・福林秀幸・岡田暁誠 田中義之・足立了平・大脇利美・久保祐美子・藤田愛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
積極的に医療に参画することができるようになるために、医療の流れ、各医療職の職能、チーム医療における歯科衛生士の役割など、基礎知識を習得する。				
授業の到達目標				
1. 医療チームのメンバーの役割と連携を説明できる。 2. チーム医療における歯科の役割について説明できる。 3. 保健・医療・福祉・介護における多職種連携と歯科衛生士の役割を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	CT、MRI等の見方	診療放射線技師	鈴木	
2	モニターの見方	臨床工学技士	林田	
3	視覚障害者の対応の仕方	視能訓練士	山本	
4	車椅子、ベット等の移乗実習	理学療法士	福林	
5	車椅子、松葉づえ等の使用実習	理学療法士	福林	
6	高齢者体験実習①	作業療法士	岡田	
7	高齢者体験実習②	作業療法士	岡田	
8	口腔機能障害について	言語聴覚士	田中	
9	口腔機能障害について	言語聴覚士	田中	
10	災害医療と歯科医療①	歯科医師	足立	
11	災害医療と歯科医療②	歯科医師	足立	
12	病院歯科の歯科衛生士の役割①	歯科衛生士	大脇	
13	病院歯科の歯科衛生士の役割②	歯科衛生士	大脇	
14	障害者歯科センターの歯科衛生士の役割	歯科衛生士	久保	
15	訪問看護と歯科との関わり	訪問看護師	藤田	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	毎回授業のレポートを提出		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
栄養指導		講義	田丸 淳子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
現代の健康と食生活に関する問題や課題と、歯科衛生士が必要とする栄養指導の知識と技法について学ぶことを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 国民の健康と栄養の現状を説明できる。 2. 望ましい食生活、食事計画、食品分類、食事バランスガイドを説明できる。 3. ライフステージと食生活を説明できる。 4. 疾患の治療食、特定保健食品を説明できる。 5. 高齢者を取り巻く問題と栄養指導を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	健康と食事：健康と食事の関わりについて理解する			
2	国民の健康と栄養の現状：国民健康・栄養調査を活用し、国民の健康と栄養についての課題を理解する			
3	日本人の食事摂取基準の活用（1）：日本人の食事摂取基準の個人に対する活用法を理解する。			
4	日本人の食事摂取基準の活用（2）：日本人の食事摂取基準を活用して、個人のエネルギー必要量や主な栄養素の目指したい摂取量を推定できる			
5	栄養計算（1）：日本食品標準成分表を使った栄養価計算法を理解する			
6	栄養計算（2）：栄養価計算結果を用いて栄養評価を行うことができる			
7	食の多様性（1）：食事バランスの考え方を理解する			
8	食の多様性（2）：食事バランスを考慮した献立（料理の組合せ方）について理解する			
9	ライフステージ（1）：妊産婦期、乳児期の栄養の特徴について理解する。			
10	ライフステージ（2）：幼児期、学童期、青年期の栄養の特徴について理解する。			
11	ライフステージ（3）：成人期の栄養の特徴と治療食、特定保健食品を用いた実践について理解する。			
12	ライフステージ（4）：高齢期の栄養の特徴と特定保健食品を用いた実践について理解する。			
13	栄養評価法（1）：食事調査法について理解する。食事摂取頻度調査法を実践できる			
14	栄養評価法（2）：習慣的な食事について評価し、アプローチ方法を検討できる			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%			
レポート・課題	40%	課題への取り組みや結果をもとに評価する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
日本人の食事摂取基準2020年版	伊藤貞嘉・佐々木敏 監修		第一出版	
だれでもわかる・だれでも使える食事バランスガイド	早瀬仁美		農山漁村文化協会	
自由記載				
備考				
授業において必要な資料等は配布します。				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
衛生行政		講義	江原 美奈	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
適切な歯科衛生を行うために、日本の保健・医療・福祉制度と医療法制を理解し、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 医療と社会環境を説明できる。		5. 社会保障制度、社会福祉制度を概説できる。		
2. 歯科衛生士と法律を説明できる。				
3. 医療関係職種を概説できる。				
4. その他の関係法規を概説できる。				
授業計画				
回	内容			
1	法制度をなぜ学ぶか？ 医療法（沿革及び目的、医療提供の理念）			
2	医療法（医療の安全の確保、及び医療提供体制の確保）			
3	歯科医師法 歯科衛生士法（沿革及び目的）			
4	歯科衛生士法（業務および義務）			
5	歯科衛生士法（免許） 歯科技工士法 医療関係職種と法律			
6	地域包括ケアシステム 地域保健に関する法律			
7	歯科口腔保健の推進に関する法律 薬事に関連する法規 その他の衛生法規			
8	社会保障（医療保険の種類）			
9	社会保障（医療保険の仕組み、介護保険制度概要）			
10	社会保障（介護保険給付について）			
11	社会保障（介護サービスについて）			
12	社会保障（年金保険 労働法規 雇用保険 労災）			
13	社会保障（社会福祉制度）			
14	医療の動向			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	国家試験に対応できる基礎力を評価基準とする。		
レポート・課題	30%	毎回の授業におけるワークへの取り組みを評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科六法コンメンタール 第2版	社会歯科学会		ヒョーロン	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
看護学		講義	土肥 加津子 他	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
看護学の学習を通して、保健・医療・福祉分野および人々の生活における看護の役割を理解する。				
授業の到達目標				
1. 看護と看護学について理解する。 2. 看護の対象理解について、講義・演習・体験を通して学習する。 3. 医療現場における看護師の業務・活動を知り、歯科衛生士との協働について考える。 4. 保健・医療・福祉分野における看護（看護師）活動の課題・展望を考える。				
授業計画				
回	内容			
1	看護と看護学～暮らし・社会の変化と看護の専門性、法的根拠			
2	対象理解（1）～個人・家族・地域の理解、人間の尊厳と看護の歴史			
3	対象理解（2）～患者と回復過程、患者を取り巻く環境とチーム医療			
4	看護の知識・技術・態度（1）～安全/安楽/自立への看護（観察と身体侵襲のある技術）			
5	看護の知識・技術・態度（2）～安全/安楽/自立への看護（コミュニケーション、看護管理）			
6	看護の知識・技術・態度（3）～安全/安楽/自立への看護（歯科衛生士との協働の実際）			
7	チーム医療における専門性発揮と拡大する看護の場			
8	医療・社会への貢献と生涯教育～その先、を考える			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%	レポートや演習課題提出の内容評価		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
関連医学・医学概論		講義・演習	黒木 信祐・三村 明美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>歯や口腔の状態は全身の健康に大きな影響を及ぼし、様々な疾患が歯や口腔の機能に影響を与える。ここでは歯科と関係が深い様々な疾患を学び、歯科診療や多職種連携において、歯科衛生士に必要な医学的知識を修得することを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>講義で取り上げる様々な疾患の病因、病態、症状、治療などを知り、歯科との関係や診療時における留意点などを理解する。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	総論 代謝・内分泌疾患について：黒木			
2	消化器疾患、循環器疾患について：黒木			
3	血液疾患、呼吸器疾患について：黒木			
4	腎・泌尿器疾患について：黒木			
5	免疫疾患・膠原病について：黒木			
6	感染症について：黒木			
7	神経疾患について：黒木			
8	精神疾患について：黒木			
9	ガン、婦人科疾患について：黒木			
10	パノラマ、デンタルX線写真の読影および撮影方法、撮影実習：黒木			
11	撮影実習：黒木			
12	安全管理の概論と基礎：三村			
13	インシデント・アクシデント：三村			
14	感染対策：三村			
15	感染対策：三村			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック	橋本賢二	医歯薬出版株式会社		
歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
口腔外科学		講義	大森 昭輝	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な、顎口腔領域に生じる各種疾患の特徴や症状、診断法および治療法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 顎口腔領域に生じる各種疾患を分類できる。 2. 先天異常と発育異常の症状と治療法を概説できる。 3. 顎口腔領域の損傷と機能障害の症状と治療法を概説できる。 4. 口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を概説できる。 5. 顎口腔領域の化膿性炎症疾患の症状と治療法を概説できる。 6. 顎口腔領域の嚢胞性疾患の種類と症状および治療法を概説できる。 7. 顎口腔領域の腫瘍の種類と症状および治療法を概説できる。 8. 唾液腺疾患の症状と治療法を概説できる。 9. 顎口腔領域の神経疾患の症状を概説できる。 10. 抜歯・小手術の術中・術後の偶発症および術後の注意を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	口腔 (こうくう) 外科の概要+先天異常と発育障害 (その1)			
2	先天異常と発育障害 (その2)			
3	損傷+歯槽骨骨折手術・顎骨骨折手術 (Ⅱ編5章 口腔外科小手術 224頁～226頁を参照)			
4	口腔粘膜疾患 (その1)			
5	口腔粘膜疾患 (その2)			
6	炎症+消炎手術 (Ⅱ編5章 口腔外科小手術 202頁～205頁を参照)			
7	嚢胞+嚢胞摘出術・嚢胞開窓術 (Ⅱ編5章 口腔外科小手術 214頁～218頁参照)			
8	腫瘍および腫瘍類似疾患+良性腫瘍切除術 (Ⅱ編5章 口腔外科小手術 221頁～222頁参照)			
9	顎関節疾患			
10	唾液腺疾患+唾石摘出術 (Ⅱ編5章 口腔外科小手術 218頁～220頁参照)			
11	神経疾患			
12	血液疾患+口腔心身症			
13	口腔外科診療の実際 (診察と診断・歯科診療で問題となる全身疾患)			
14	口腔外科診療の実際 (口腔外科手術の準備・手術の手技)			
15	口腔外科診療の実際 (口腔外科小手術: 抜歯術・小帯切除術・歯槽骨整形術・口腔インプラント手術)			
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験の結果でのみ判定します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	講義前に前週の要点をまとめた小テストを配付します。(各自自己採点)			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載	講義前に当日使用するスライドを印刷し配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	必要があれば随時学生の皆さんにお知らせします。			
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態		担当教員名			
歯科診療補助Ⅲ		講義・演習		三村 明美			
時間数（単位数）		授業回数		年次		開講時期	
45 時間（2 単位）		23 回		2 年次		前期	
授業の目的・概要							
専門的な歯科診療補助の方法を学び、歯科衛生士業務に必要な技術を身につける。							
授業の到達目標							
1. 歯科診療補助の器具を準備できる。 2. 歯科診療補助の手順を説明できる。 3. 患者の安全に配慮した歯科診療補助ができる。							
授業計画							
回	内容			回	内容		
1	保存修復 コンポジットレジン 1			16	外科処置 難抜歯 2		
2	保存修復 コンポジットレジン 2			17	補綴治療 1		
3	保存修復 グラスアイオノマーセメント 1			18	補綴治療 2		
4	保存修復 グラスアイオノマーセメント 2			19	小児歯科治療 1		
5	保存修復 インレー修復 1			20	小児歯科治療 2		
6	保存修復 インレー修復 2			21	口腔機能低下症 1		
7	歯髄処置 1			22	口腔機能低下症 2		
8	歯髄処置 2			23	まとめ		
9	根管処置 1						
10	根管処置 2						
11	印象採得相互実習 1						
12	印象採得相互実習 2						
13	外科処置 抜歯 1						
14	外科処置 抜歯 2						
15	外科処置 難抜歯 2						
成績の評価方法と基準							
種別	割合	評価基準・その他備考					
筆記試験	70%						
レポート・課題	20%	毎回規定通りに提出すること					
小テスト							
平常点	10%						
その他							
自由記載							
教科書							
書名	著者・編集者名			出版社名			
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社			
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社			
歯科衛生学シリーズ 歯科機器	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社			
イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第4版	竹澤保政			永末書店			
デンタルスタッフのための歯科保険診療ハンドブック	大阪府歯科保険医協会			全国保険医団体連合会			
自由記載							
参考文献							
書名	著者・編集者名			出版社名			
なし							
自由記載							
備考							

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科診療補助Ⅳ		講義・演習	三村 明美・大脇 利美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科診療補助の方法を学び、歯科衛生士業務に必要な技術を習得する。				
授業の到達目標				
1. 歯科診療補助の器具を準備できる。 2. 歯科診療補助の手順を説明できる。 3. 患者の安全に配慮した歯科診療補助ができる。 4. 口腔内写真撮影ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	緊急事態と対応1			
2	緊急事態と対応2			
3	口腔内写真撮影1			
4	口腔内写真撮影2			
5	口腔内写真撮影3			
6	口腔内写真撮影4			
7	スタディモデル1			
8	スタディモデル2			
9	スタディモデル3			
10	スタディモデル4			
11	カスタムトレー1			
12	カスタムトレー2			
13	周術期における歯科診療の補助1			
14	周術期における歯科診療の補助2			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	30%			
レポート・課題	50%			
小テスト				
平常点	20%			
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
デンタルスタッフのための歯科保健診療ハンドブック	大阪府歯科保険医協会		全国保険医団体連合会	
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科保健指導Ⅲ		講義・演習	宮崎 歌苗	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
1. 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。 2. ライフステージと機能障害に応じた生活指導に必要な知識、技術、態度を習得する。		3. 口腔衛生管理を行うために対象者の問題点を把握し必要な知識、技術および態度を習得する。 4. 歯科保健指導の遂行に必要な、対象者の情報について収集方法を習得する。 5. 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。		
授業の到達目標				
1. 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 2. 特別配慮を要する障害児者・要介護高齢者・大規模災害被災者の特徴と歯科衛生介入、歯科保健活動を説明できる。 3. 口腔機能管理に関する指導について説明できる。 4. 行動科学の理論やモデルと行動変容を説明できる。		5. 禁煙支援・指導について説明できる。 6. 情報収集の目的や得られる情報を説明できる。 7. 医療面接の目的を説明できる。 8. 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。 9. 健康教育の評価を説明できる。 10. 健康教育活動の方法を説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	ライフステージ別保健指導・老年期			
2	配慮を要する者への歯科衛生介入・要介護高齢者			
3	配慮を要する者への歯科衛生介入・障がい者			
4	口腔機能の低下に関わる指導			
5	配慮を要する者への歯科衛生介入・大規模災害被災者			
6	保健行動支援のための基礎知識①			
7	保健行動支援のための基礎知識②			
8	禁煙指導と支援			
9	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理			
10	医療面接			
11	医療面接演習①			
12	医療面接演習②			
13	地域歯科保健活動における健康教育			
14	地域歯科保健活動における健康教育			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	10%	課題への取り組み、内容を評価		
小テスト				
平常点	10%	授業態度、実習態度		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
「生きる力」をはぐくむ 学校での歯・口の健康づくり改訂版	日本学校保健会		日本学校保健会	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科保健指導IV		講義・演習	塩崎 啓子・三村 明美・八尾 典江	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
45 時間（2 単位）		23 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
1. 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。 2. 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。				
授業の到達目標				
1. 高齢者の口腔のケア時の留意点について説明できる。 2. 高齢者の口腔のケアに使用する器材について説明できる。 3. 口腔衛生管理の方法を説明できる。 4. 健康教育活動の方法を説明できる。 5. 健康教育の内容を説明できる。 6. 健康教育活動の工夫と留意点を説明できる。 7. 健康教育の評価を説明できる。 8. 集団・組織・地域の実態が把握できる。 9. 対象者の特性と口腔保健ニーズの把握ができる。 10. 高齢者施設における口腔保健の実態が把握できる。 11. 高齢者施設を対象とした健康教育の立案・準備ができる。 13. 保育所、幼稚園（乳幼児）、認定こども園の口腔保健の実態が把握できる。 14. 保育所、幼稚園（乳幼児）、認定こども園を対象とした健康教育の立案・準備ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	口腔衛生管理（口腔ケア）について		16	保育所における健康教育の準備
2	口腔衛生管理（口腔ケア）実習①		17	保育所における健康教育の準備
3	口腔衛生管理（口腔ケア）実習②		18	保育所における健康教育の準備
4	高齢者施設における健康教育の準備		19	保育所における健康教育の準備
5	高齢者施設における健康教育の準備		20	保育所における健康教育の準備
6	高齢者施設における健康教育の準備		21	保育所における健康教育の準備
7	高齢者施設における健康教育の準備		22	保育所における健康教育の準備
8	高齢者施設における健康教育の準備		23	保育所における健康教育の準備
9	高齢者施設における健康教育の準備			
10	高齢者施設における健康教育の準備			
11	高齢者施設における健康教育の準備			
12	高齢者施設における健康教育の準備			
13	高齢者施設における健康教育の準備			
14	保育所における健康教育の準備			
15	保育所における健康教育の準備			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	50%	授業態度、健康教育準備への取り組み（態度、内容）を評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 保健生態学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 小児歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科放射線学		講義	鈴木 保	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
放射線被曝による人体への影響と防護、歯科衛生業務の実施に必要なX線撮影の手技、読影について理解する事を目的とする。				
授業の到達目標				
放射線の生物学的影響とその防護法を理解する。 エックス線画像の原理を理解する。 口内法、オルソパントモグラフィーの撮影法を理解する。		エックス線装置の仕組みと管理方法を理解する。 超音波検査、CT、MRIの原理と特徴を理解する。		
授業計画				
回	内容			
1	歯科における放射線の利用			
2	放射線による人体への影響			
3	エックス線撮影装置の概要			
4	画像形成としてのフィルム法、CR法			
5	CCD、CMOS、FPD			
6	超音波、CT、MRI、RI検査の概要			
7	口内法、オルソパントモグラフィー、セファログラフィー撮影法			
8	唾液腺造影、嚥下造影、放射線治療			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科麻酔学		講義・演習	小谷 順一郎	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な全身管理ならびに局所麻酔、精神鎮静法および全身麻酔を理解する事を目的とする。				
授業の到達目標				
1. バイタルサインを説明できる。 5. 全身的偶発症とその対応を説明できる。 2. 歯科における局所麻酔法の種類と目的を説明できる。 6. バイタルサインの測定（血圧）の技能を習得する。 3. 精神鎮静法・全身麻酔の適応症と種類を説明できる。 7. 一次救命処置（BLS）の知識・技能を習得する。 4. 内科的有病患者の歯科治療上の注意点を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯科麻酔学概論、バイタルサインの重要性			
2	【演習】手動血圧測定法			
3	歯科麻酔法各論① 局所麻酔法			
4	歯科麻酔法各論② 全身麻酔・精神鎮静法			
5	臨床全身管理各論①（循環器疾患への対応）			
6	臨床全身管理各論②（呼吸器疾患・脳血管障害への対応）			
7	臨床全身管理各論③（歯科治療時の全身的偶発症への対応）			
8	【演習】一次救命処置（Basic Life Support:BLS）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	講義・演習で得た知識について、医療人として必要なレベルに達しているかを評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	20%	受講態度（取り組み、姿勢）などを評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載	講義ごとにレジュメ・講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学	佐久間泰司 他編		学健書院	
改訂版 知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療	小谷順一郎 他編		永末書店	
自由記載				
備考				
高齢化が進む社会の中で歯科医療のニーズも大きく変化しています。内科的有病患者が歯科治療を受ける機会も格段に増えています。歯科衛生士としても全身管理に関する知識・態度・技能が求められます。歯科麻酔学講義・演習では、これらの基本となる項目をできるだけわかりやすく解説します。積極的な態度での受講を期待します。				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態		担当教員名	
歯周病予防処置Ⅲ		講義・演習		八尾 典江	
時間数（単位数）		授業回数		年次	開講時期
45 時間（2 単位）		23 回		2 年次	前期
授業の目的・概要					
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。					
授業の到達目標					
1. 人の歯・歯肉・口腔の検査ができる。		5. 超音波スケーラーを操作できる。		6. エアースケーラーを操作できる。	
2. 審査の結果を説明できる。		3. 人の口腔内でシックルタイプスケーラーを操作できる。		7. シャープニングができる。	
3. 人の口腔内でシックルタイプスケーラーを操作できる。		4. 人の口腔内でキュレットタイプスケーラーを操作できる。		8. 歯面清掃器を操作できる。	
4. 人の口腔内でキュレットタイプスケーラーを操作できる。					
授業計画					
回	内容				
1	歯・歯周組織の検査	講義	16	機械的スケーラー①	講義
2	プロービング	相互演習	17	機械的スケーラー①	演習
3	プロービング	相互演習	18	機械的スケーラー②	演習
4	ハンドスケーラー 復習	講義・演習	19	機械的スケーラー②	演習
5	ハンドスケーラー 復習	講義・演習	20	機械的スケーラー③	相互演習
6	ハンドスケーラー 前歯	相互演習	21	機械的スケーラー③	相互演習
7	ハンドスケーラー 前歯	相互演習	22	歯面清掃器	講義
8	ハンドスケーラー 左側臼歯	相互演習	23	歯面清掃器	演習
9	ハンドスケーラー 左側臼歯	相互演習			
10	ハンドスケーラー 右側臼歯	相互演習			
11	ハンドスケーラー 右側臼歯	相互演習			
12	シャープニング 復習	講義・演習			
13	シャープニング 復習	講義・演習			
14	シャープニング まとめ	演習			
15	シャープニング まとめ	演習			
成績の評価方法と基準					
種別	割合	評価基準・その他備考			
筆記試験	40%				
レポート・課題	20%	毎回規定通りに提出すること			
小テスト					
平常点	20%	授業態度・身だしなみ			
その他	20%	実技テスト			
自由記載					
教科書					
書名	著者・編集者名			出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社	
自由記載	必要に応じてプリントを配布する				
参考文献					
書名	著者・編集者名			出版社名	
特に指定しない					
自由記載					
備考					

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯周病予防処置Ⅳ		講義・演習	八尾 典江	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。				
授業の到達目標				
1. 超音波スケーラーを操作できる。 2. エアスケーラーを操作できる。 3. SPTの基礎知識を説明できる。 4. 歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる。 5. メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。 6. 歯周病のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。 7. エアフローについて説明できる				
授業計画				
回	内容			
1	歯周病セミナー ライオン(株)			
2	歯周病セミナー ライオン(株)			
3	機械的スケーラー① エアスケーラー 相互演習			
4	機械的スケーラー① エアスケーラー 相互演習			
5	機械的スケーラー② 超音波 相互演習			
6	機械的スケーラー② 超音波 相互演習			
7	エアフロー EMS (株)			
8	エアフロー EMS (株)			
9	メンテナンス 講義			
10	歯科衛生アセスメント・介入① 相互実習			
11	歯科衛生アセスメント・介入① 相互実習			
12	歯科衛生アセスメント・介入② 相互実習			
13	歯科衛生アセスメント・介入② 相互実習			
14	歯科衛生アセスメント・介入③ 相互実習			
15	歯科衛生アセスメント・介入③ 相互実習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	40%			
レポート・課題	30%	毎回規定通りに提出すること		
小テスト				
平常点	30%	授業・実習態度・身だしなみ		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載	必要に応じてプリントを配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
摂食嚥下		講義	今井 絵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>歯科医療が担うべき摂食嚥下の病気、病態及びその対処法を理解し、摂食嚥下機能の保持増進の知識を習得することを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下運動にかかわる器官の基本的な解剖と正常な摂食嚥下機能のプロセスを説明できる。 2. 摂食嚥下機能障害の代表的な病気と病態を説明できる。 3. 摂食嚥下機能障害患者の診療における歯科衛生士の役割を説明できる。 				
授業計画				
回	内容			
1	摂食嚥下障害とは			
2	摂食嚥下のプロセス：命令嚥下と自然嚥下、5期モデルとプロセスモデル			
3	誤嚥とその原因			
4	摂食嚥下に関わる構造（口腔・咽頭・鼻腔）			
5	摂食嚥下に関わる構造（喉頭）			
6	摂食嚥下に関わる機能とメカニズム			
7	摂食嚥下に関わる機能と評価			
8	摂食嚥下リハビリテーション（アセスメント）			
9	摂食嚥下リハビリテーション（訓練の考え方・計画立案）			
10	摂食嚥下リハビリテーション（基礎訓練）			
11	摂食嚥下リハビリテーション（摂食訓練）			
12	摂食嚥下リハビリテーション（訓練まとめ）			
13	リスクマネジメント			
14	摂食嚥下リハビリテーションの症例検討			
15	摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%	講義中に検討したことをレポートとして提出を求める。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版	公益社団法人日本歯科衛生士会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
先端医療		講義・演習	安岡 大介・末光 妙子・相神 ゆり	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科医療の発展にともない、歯科衛生士業務は先端かつ高度な知識を必要としている。口腔インプラント治療、レーザー治療、口腔内スキャナーについて学ぶことを目的とする。ミュゼホワイトニングの漂白治療について学ぶことを目的とする。自分自身のリラクセス、診療室でのアロマの応用について学ぶことを目的とする。				
授業の到達目標				
1.インプラントの基礎知識が説明できる。 5.レーザー治療について説明できる。 2.インプラント治療の流れ、術式が説明できる。 6.口腔内スキャナーについて概説できる。 3.インプラントのメンテナンス方法が説明できる。 7.ホワイトニングの基礎知識が説明できる。 4.レーザー治療について説明できる。 8.アロマの応用を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	インプラントの基礎知識1			安岡
2	インプラントの基礎知識2			安岡
3	インプラント治療の流れ・術式について			安岡
4	インプラントのメンテナンスについて			安岡
5	口腔内スキャナーの基礎知識			安岡
6	口腔内スキャナーの相互実習			安岡
7	レーザー治療の基礎知識			安岡
8	ホワイトニングの基礎知識 1			末光
9	ホワイトニングの基礎知識 2			末光
10	ガムダム等保護器材（実習）			末光
11	ガムマッサージ（実習）			末光
12	ホワイトニング相互実習 1			末光
13	ホワイトニング相互実習 2			末光
14	アロマセラピー、精油の基礎知識を学ぶ <セルフケアで使えるアロマクラフトづくり>			相神
15	アロマセラピーを歯科臨床に活かす			相神
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	安岡40%、相神10%		
レポート・課題	10%	安岡10%		
小テスト	20%	末光20%		
平常点	20%	末光20%		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
新版みるみる理解できる図解スタッフ向けインプラント入門	中島康 監著		クインテッセンス出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
必要に応じてプリントを配付する。（安岡）				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床検査		講義	木村 英訓	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報、歯科疾患の診断および歯科衛生士業務の実施に必要な基本的検査および全身の一般検査の意義と関連を理解する事を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 医療情報の意義、臨床検査の倫理と安全を説明できる。		2. 歯科治療にあたり、留意すべき主な全身疾患と偶発症を説明できる。		5. 検体検査を説明できる。
3. バイタルサインのモニタリングを概説できる。		4. 生理機能検査を説明できる。		6. 口腔領域の臨床検査を説明できる。
				7. 摂食嚥下関連の検査を説明できる。
授業計画				
回	内容			
1	臨床検査の倫理と安全性 (総論) 生体検査① (バイタルサイン)			
2	生体検査② (心機能、筋電図、脳波、血中酸素濃度) 検体検査① (採血) 口腔領域の臨床検査① (口臭)			
3	検体検査② (血液学的検査、血液凝固・線溶系検査) 口腔領域の臨床検査② (味覚検査)			
4	検体検査③ (生化学検査) 口腔領域の臨床検査③ (歯科金属アレルギーの検査)			
5	検体検査④ (免疫・血清検査、血液型検査、その他の検査) 口腔領域の臨床検査④ (舌の検査)			
6	検体検査⑤ (感染症・細菌検査、病理検査) 口腔領域の臨床検査⑤ (口腔粘膜の検査)			
7	口腔領域の臨床検査⑥ (唾液検査、歯周組織の検査、歯の検査、根管細菌培養検査)			
8	摂食嚥下関連の検査 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点	20%	授業態度、授業にのぞむ姿勢を評価		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 臨床検査	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床指導教育Ⅱ		講義	三村 明美・八尾 典江・塩崎 啓子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
臨床実習を行うにあたって、必要な心得、規定を学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 医療倫理に基づく基本的マナーを習得する。 2. 臨床実習記録の書き方を習得する。 3. 臨床の歯科衛生士の役割を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	臨床実習Ⅱに向けての心構え			
2	臨床実習Ⅱに向けての心構え			
3	臨床実習Ⅱに向けての心構え			
4	臨床実習Ⅱに向けての心構え			
5	臨床実習Ⅱの振り返り			
6	臨床実習Ⅱの振り返り			
7	臨床実習Ⅱの振り返り			
8	臨床実習Ⅱの振り返り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%			
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
新人歯科衛生士・歯科助手 院内マニュアル第2版	江澤庸博	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリアデザインⅡ		講義	野村 真紀	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>社会人であり組織の一員として失礼のない立ち居振る舞いや言動で自信を持って仕事に取り組めるよう、社会人として必要な基本的なビジネスマナーを1年次の復習を兼ねて改めて学びを深めます。 主体的にお仕事に取り組む姿勢と意識、周りの人たちに対する心配り・ホスピタリティについて考え、自らのキャリアデザインを色々な方法で表現する時間をクラス全体で作ります。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 基本的なビジネスマナーを習得する。 2. 医療現場での適切な接遇ができる。 3. 自らのキャリアデザインを、自ら考えた表現方法で表現する。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	<ガイダンス>この授業の目的と進め方 定期試験・評価について・自己紹介			
2	<第一印象の重要性>相手に安心と信頼を感じてもらえる表情や所作・第一印象の重要性について			
3	<マナーとモラル>公共の場や職場で求められるマナーとモラルとは？（グループディスカッション）			
4	<言葉遣いとコミュニケーション>敬語の使い方、失礼のない表現とコミュニケーションの取り方			
5	<感じの良い話し方・聴き方>積極的傾聴の方法、気配りや感じの良さを形にする方法			
6	<社会に求められる人財とは？>社会や信頼され、求められる人財とはどんな人物像かを考える			
7	<自分の将来像を考える>自分自身の将来の構想とビジョンを作成し、これからの計画を立てる			
8	<キャリアデザインのプレゼン>自ら考えた表現方法で自分のキャリアデザインを発表する			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	課題に対してのレポート作成。内容・取り組み方などから総合的に評価する		
小テスト				
平常点	50%	出席回数・授業態度・積極性などから評価をする		
その他	20%	プレゼンテーションなど（自己評価・他者評価から総合的に評価する）		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
ケーススタディで学ぶ 患者接遇パーフェクト・レッスン 2019年新版	小佐野美智子	医学通信社		
自由記載				
備考				
正しい美しい日本語を使い、積極的に授業に参加・発言することを期待しています。				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
医療事務・受付		講義	山本 修平	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
衛生行政の仕組みや保健医療、福祉関係の法規及び、社会福祉や社労保険制度について、理解を深める。				
授業の到達目標				
1. 医療保険制度と医療保険を理解する。 2. 公費負担制度と助成医療について理解する。 3. 診療報酬請求事務と受付事務について理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 授業の目的の説明			
2	医療保険制度 医療保険制度を知る			
3	医療保険制度 公費負担制度と助成医療について知る			
4	医療保険制度 その他の社会保険を知る			
5	診療報酬事務 診療報酬請求事務を知る			
6	受付事務 受付事務を知る			
7	受付事務 受付事務を体験する			
8	医療事務、受付、総括 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	医療事務・受付、医療保険制度について筆記試験で評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	20%	授業態度を評価する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科衛生学特論 I		講義	小林 正樹・新庄 文明・西山 憲行・大石 美恵・小谷 順一郎 徳田 進之介・佐々木 有美・吉松 英樹・油谷 征彦・大森 昭輝 児玉 秀樹・江原 美奈・木村 英訓	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
60 時間 (2 単位)		30 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
国家試験に合格するために各科目の特別講義を通して知識の再確認を行う。				
授業の到達目標				
国家試験に合格するための歯科衛生学の知識を獲得する。				
授業計画				
回	内容			
1	特別講義 1 (口腔解剖学 1)	16	特別講義16 (障害者歯科学 1)	
2	特別講義 2 (口腔解剖学 2)	17	特別講義17 (障害者歯科学 2)	
3	特別講義 3 (衛生・公衆衛生 1)	18	特別講義18 (歯科矯正学 1)	
4	特別講義 4 (衛生・公衆衛生 2)	19	特別講義19 (歯科矯正学 2)	
5	特別講義 5 (口腔衛生学1)	20	特別講義20 (口腔外科学 1)	
6	特別講義 6 (口腔衛生学 2)	21	特別講義21 (口腔外科学 2)	
7	特別講義 7 (薬理学・歯科薬理学 1)	22	特別講義22 (口腔外科学 3)	
8	特別講義 8 (薬理学・歯科薬理学 2)	23	特別講義23 (高齢者歯科学 1)	
9	特別講義 9 (歯科麻酔学 1)	24	特別講義24 (高齢者歯科学 2)	
10	特別講義10 (歯科麻酔学 2)	25	特別講義25 (衛生行政 1)	
11	特別講義11 (歯科麻酔学 3)	26	特別講義26 (衛生行政 2)	
12	特別講義12 (歯科補綴学 1)	27	特別講義27 (臨床歯科学 1)	
13	特別講義13 (歯科補綴学 2)	28	特別講義28 (臨床歯科学 2)	
14	特別講義14 (小児歯科学 1)	29	特別講義29 (臨床歯科学 3)	
15	特別講義15 (小児歯科学 2)	30	特別講義30 (臨床歯科学 4)	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点	100%	授業態度、授業への取り組み		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科衛生学特論Ⅱ		講義	三村 明美・八尾 典江・泉野 裕美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
国家試験に合格するために各科目の特別講義を通して知識の再確認を行う。				
授業の到達目標				
国家試験に合格するための歯科衛生学の知識を獲得する。				
授業計画				
回	内容			
1	国家試験対策1 指数1			
2	国家試験対策2 指数2			
3	国家試験対策3 指数3			
4	国家試験対策4 指数4			
5	国家試験対策5 指数5			
6	国家試験対策6 指数6			
7	国家試験対策7 口腔機能検査1			
8	国家試験対策8 口腔機能検査2			
9	国家試験対策9 口腔機能検査3			
10	国家試験対策10 口腔機能検査4			
11	国家試験対策11 歯科診療補助1			
12	国家試験対策12 歯科診療補助2			
13	国家試験対策13 歯科診療補助3			
14	国家試験対策14 う蝕予防処置1			
15	国家試験対策15 う蝕予防処置2			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科診療補助Ⅴ		講義	三村 明美・大脇 利美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科診療補助の方法を学び、歯科衛生士業務に必要な知識・技術を習得する。				
授業の到達目標				
1. 歯科診療における患者さんの安全に配慮し、知識、技術を取得する。 2. アセスメントの取り方、ケアプランの立て方を習得する。				
授業計画				
回				
1	アセスメントの取り方、ケアプラン①			
2	アセスメントの取り方、ケアプラン②			
3	歯科診療補助まとめ			
4	歯科診療補助まとめ			
5	歯科診療補助まとめ			
6	歯科診療補助まとめ			
7	歯科診療補助まとめ			
8	歯科診療補助まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題	20%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生士国家試験ポイントチェック5	歯科衛生士国家試験対策検討会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科保健指導 V		講義・演習	宮崎 歌苗	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
1. 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。 2. 歯科衛生活動を展開するために必要な歯科衛生過程を習得する。 3. 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。				
授業の到達目標				
1. 歯科衛生過程のマネジメントサイクルを理解し、全体像を説明できる。 2. 歯科衛生過程における各構成要素の目的を説明できる。 3. 歯科衛生過程における書面化の意義を説明できる。 4. 歯科衛生過程のプロセスを理解できる。 5. 口腔健康管理を行うため歯科衛生アセスメントができる。 6. 口腔健康管理を行うための歯科衛生診断ができる。 7. 口腔健康管理を行うための歯科衛生計画立案ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯科衛生過程の概要			
2	歯科衛生過程①			
3	歯科衛生過程②			
4	歯科衛生過程③			
5	歯科衛生過程④			
6	歯科衛生過程⑤			
7	歯科衛生過程⑥			
8	歯科衛生過程⑦			
9	歯科衛生過程⑧			
10	歯科衛生過程⑨			
11	歯科衛生過程⑩			
12	歯科衛生過程⑪			
13	歯科衛生過程⑫			
14	歯科衛生過程⑬			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%			
レポート・課題	40%	課題への取り組み、内容（理解度）を評価		
小テスト				
平常点	10%	授業態度		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
よくわかる歯科衛生過程	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科保健指導VI		講義・演習	山下 快子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
国家試験対策として1～3年生で学んだ歯科保健指導の復習講義を実施し、知識の整理・まとめを行う。				
授業の到達目標				
専門分野である歯科保健指導について理解できる。(歯科衛生士国家試験問題出題基準に準じる)				
授業計画				
回	内容			
1	歯科保健指導のまとめ① 総論①			
2	歯科保健指導のまとめ② 総論②			
3	歯科保健指導のまとめ③ 口腔衛生管理①			
4	歯科保健指導のまとめ④ 口腔衛生管理②			
5	歯科保健指導のまとめ⑤ 口腔衛生管理③			
6	歯科保健指導のまとめ⑥ 口腔衛生管理④			
7	歯科保健指導のまとめ⑦ 口腔衛生管理⑤			
8	歯科保健指導のまとめ⑧ 口腔衛生管理⑥			
9	歯科保健指導のまとめ⑨ 生活習慣指導①			
10	歯科保健指導のまとめ⑩ 生活習慣指導②			
11	歯科保健指導のまとめ⑪ 生活習慣指導③			
12	歯科保健指導のまとめ⑫ 食生活指導①			
13	歯科保健指導のまとめ⑬ 食生活指導②			
14	歯科保健指導のまとめ⑭ 食生活指導③			
15	歯科保健指導のまとめ⑮ 健康教育			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点	100%	態度、授業への取り組み		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載	歯科衛生士国家試験問題集 (医歯薬出版株式会社、日本医歯薬研修協会)、模擬試験問題			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
総合歯科演習		演習	八尾 典江・三村 明美・塩崎 啓子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
3年間で学んだことを整理し、総まとめの演習を行う。				
授業の到達目標				
歯科衛生士として必要な知識や、基礎的な技術を身につけ臨床に応用することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	情報収集 1			
2	情報収集 2			
3	情報処理 1			
4	情報処理 2			
5	計画立案 1			
6	計画立案 2			
7	歯科衛生介入 1			
8	歯科衛生介入 2			
9	歯科衛生介入 3			
10	歯科衛生介入 4			
11	記録 1			
12	記録 2			
13	記録 3			
14	発表 1			
15	発表 2			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	50%			
小テスト				
平常点				
その他	50%	態度、授業への取り組み		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和6年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床指導教育Ⅲ		講義・演習	八尾 典江・三村 明美・久保 祐美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
臨床実習を行うにあたって、必要な心得、規定を学ぶ。 歯周病予防処置の手技を身に付ける				
授業の到達目標				
1. 障害者歯科診療を理解する 2. 歯周病予防処置の実践的な知識を応用する 3. 歯周病予防処置の実践的な技術を応用する				
授業計画				
回	内容			
1	障害者歯科			
2	歯周病予防処置 相互実習			
3	歯周病予防処置 相互実習			
4	歯周病予防処置 相互実習			
5	歯周病予防処置 相互実習			
6	歯周病予防処置 相互実習			
7	歯周病予防処置 相互実習			
8	歯周病予防処置 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	60%	毎回規定通りに提出すること		
小テスト				
平常点	30%	授業態度・身だしなみ		
その他	10%			
自由記載	再試験の場合は実技テストを行う			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

